

幼児教育学科 ディプロマポリシーと学習到達度評価表

【質問No】	【評価の数値】→	5 とても期待以上	4 やや期待以上	3 期待どおり	2 やや不足	1 とても不足
↓	1. 保育や教育の基礎知識、あるいはその対象についての幅広い知識を有し、また保育の基本的な技術を有している。	講義・演習科目の GPA3.5以上	講義・演習科目の GPA3.0以上	講義・演習科目の GPA2.5以上	講義・演習科目の GPA2.0以上	講義・演習科目の GPA2.0未満
1	1-1. 福祉や保育・教育の基礎的な知識を習得し、現代の保育者として必要な役割について理解している。	福祉や保育、教育の基礎的な事項について他者にわかりやすく説明できる。また、自分が目指す保育者像とその課題について、他者に伝え、話し合うことができる。	福祉や保育、教育の基礎的な事項について、また、自分が目指す保育者像について、他者にわかりやすく説明できる。	福祉や保育、教育の基礎的な事項や保育者の役割について、他者にわかりやすく説明できる。	支援を得て、福祉や保育、教育の基礎的な事項や保育者の役割について、他者に説明できる。	福祉や保育、教育の基礎的な事項や保育者の役割について説明するためにかなりの支援を要する。
2	1-2. 子どもの心身の発達および健康管理についての知識を習得している。	子どもの心身の発達や健康管理の基礎的な事項とその保育場面への適用について他者にわかりやすく説明でき、話し合うことができる。	子どもの心身の発達や健康管理の基礎的な事項とその保育場面への適用について他者にわかりやすく説明できる。	子どもの心身の発達や健康管理の基礎的な事項について他者にわかりやすく説明できる。	支援を得て、子どもの心身の発達や健康管理の基礎的な事項について他者に説明できる。	子どもの心身の発達や健康管理の基礎的な事項について説明するためにかなりの支援を要する。
3	1-3. 乳児や障がい児も含め、様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する知識を習得している。	様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する基礎的な事項について他者にわかりやすく説明でき、話し合うことができる。また、これらについて理解を深める方法を自分で考え実践できる。	様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する基礎的な事項について他者にわかりやすく説明でき、話し合うことができる。	様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する基礎的な事項について他者にわかりやすく説明できる。	支援を得て、様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する基礎的な事項について他者に説明できる。	様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する基礎的な事項について説明するためにかなり支援を要する。
4	1-4. 音楽、造形、体育などの活動を通して子どもの感性を育むことができよう、それらの基本的な技術を習得している。	以下の条件を満たす。①弾き歌いのレパートリーが60曲以上ある。②子どもたちに提案し楽しめる造形活動が10以上ある。③子どもたちに提案し、楽しめる運動遊びが10以上ある。④児童文化財(手遊び、パネルシアターなど)のレパートリーが25以上ある。	以下の条件を満たす。①弾き歌いのレパートリーが40曲以上ある。②子どもたちに提案し楽しめる造形活動が7以上ある。③子どもたちに提案し、楽しめる運動遊びが7以上ある。④児童文化財(手遊び、パネルシアターなど)のレパートリーが20以上ある。	以下の条件を満たす。①弾き歌いのレパートリーが20曲以上ある。②子どもたちに提案し楽しめる造形活動が5以上ある。③子どもたちに提案し、楽しめる運動遊びが5以上ある。④児童文化財(手遊び、パネルシアターなど)のレパートリーが15以上ある。	以下の条件を満たす。①弾き歌いのレパートリーが15曲以上ある。②子どもたちに提案し楽しめる造形活動が2つ以上ある。③子どもたちに提案し、楽しめる運動あそびが2つ以上ある。④児童文化財(手遊び、パネルシアターなど)のレパートリーが10以上ある。	以下のいずれかの条件を満たす。①弾き歌いのレパートリーが15曲未満。②子どもたちに提案し楽しめる造形活動が一つしかない。③子どもたちに提案し、楽しめる運動あそびが一つしかない。④児童文化財(手遊び、パネルシアターなど)のレパートリーが10未満。
	2. 保育者の社会的責任についての理解のもと、子どもが最善の利益を得られるよう保育・教育の計画を立案・実施する基礎的な力を有している。	実習科目の GPA3.5以上	実習科目の GPA3.0以上	実習科目の GPA2.5以上	実習科目の GPA2.0以上	実習科目の GPA2.0未満
5	2-1. 子どもの育ちを捉え、的確に保育記録等として表現する力を習得している。	実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述でき、さらに、それらから子どもの内面を深く理解した内容まで記述できる。また、子どもとのかかわりについて具体的に記述できる。そして、これらの理解を翌日(後日)の援助に生かし実践できる。	実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述でき、さらに、それらから子どもの内面を深く理解した内容まで記述できる。また、子どもとのかかわりについて具体的に記述できる。	実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述できる。また、子どもとのかかわりについて具体的に記述できる。	以下の内容のいずれかにおいて指導者の支援を要する。①実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述すること。②子どもとのかかわりについて具体的に記述すること。	以下の内容のいずれかにおいて指導者の支援をかなり要する。①実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述すること。②子どもとのかかわりについて具体的に記述すること。
6	2-2. 子どもの生活に即した保育・教育の計画を立案・実施し、自己評価する力を習得している。	全日実習の指導案を独力で作成でき、集団を意識し、子どもの実態に即したねらいや援助、環境構成などを適切に記載できる。	全日実習の指導案を独力で作成でき、子どもの実態に即したねらいや援助、環境構成などを適切に記載できる。	全日実習の指導案を独力で作成できる。	全日実習の指導案作成に他者の支援を要する。	全日実習の指導案作成に他者の支援をかなり要する。
7	2-3. 自らを律して行動する力を習得している。	授業規律が守られる。遅刻や無断欠席がなく、授業中に私語をしないこと、ロッカーや教室に私物を放置しないこと、提出物の期限を守ること、履物のルールを守ることが身に付いている。また、授業時間以外の自主学習について、課題を自ら見つけて取り組む習慣が身に付いている。	授業規律が守られる。遅刻や無断欠席がなく、授業中に私語をしないこと、ロッカーや教室に私物を放置しないこと、提出物の期限を守ること、履物のルールを守ることが身に付いている。また、授業時間以外の自主学習について、課題を自ら見つけて取り組む努力をしている。	授業規律が守られる。遅刻や無断欠席がなく、授業中に私語をしないこと、ロッカーや教室に私物を放置しないこと、提出物の期限を守ること、履物のルールを守ることが身に付いている。	以下の授業規律等の内容において、一つ以上教職員の支援を要する項目がある。遅刻や無断欠席がなく、授業中に私語をしないこと、ロッカーや教室に私物を放置しないこと、提出物の期限を守ること、履物のルールを守ることが身に付いている。	以下の授業規律等の内容において、一つ以上教職員の支援をかなり要する項目がある。遅刻や無断欠席がなく、授業中に私語をしないこと、ロッカーや教室に私物を放置しないこと、提出物の期限を守ること、履物のルールを守ることが身に付いている。
8	2-4. 他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあおうとする能力を有している。	授業時のグループ活動等において、その目的達成のために真剣に取り組め、他のメンバーに配慮ができ、また、リーダーシップを発揮して調整が行える。	授業時のグループ活動等において、その目的達成のために真剣に取り組め、他のメンバーに配慮ができる。	授業時のグループ活動等において、その目的達成のため、自分の役割を意識し、真剣に取り組める。	授業時のグループ活動等において、傍観者にとどまることが多い。	授業時のグループ活動等において、常に傍観者にとどまり、他者の支援を要する。
9	2-5. 保育者の社会的責任を理解し、子どもの最善の利益に配慮しようとする感覚を有している。	実習日誌や実習報告書等の記載内容に、子どもの人格を尊重した言動がなされていることが確認できる。また、保育所等の地域に開かれた行事にボランティアで参加している。さらに、地域の子育てを支える保育者の役割を意識している。	実習日誌や実習報告書等の記載内容に、子どもの人格を尊重した言動がなされていることが確認できる。また、実習中に知り得た個人情報を漏らさない。さらに、実習巡回時等において、それらを逸脱する内容の言動等の指摘を指導者から受けないこと。そして、保護者の対応や支援の必要性を理解している。	実習日誌や実習報告書等の記載内容に、子どもの人格を尊重した言動がなされていることが確認できる。また、実習中に知り得た個人情報を漏らさない。さらに、実習巡回時等において、それらを逸脱する内容の言動等の指摘を指導者から受けないこと。	以下のうちいずれか一つを満たす。①実習日誌や実習報告書等の記載内容に、子どもの人格を尊重しない言動がなされている部分があることを認める。②実習中に知り得た個人情報の保持に問題がある。③実習巡回時等において、それらを逸脱する内容の言動等の指摘を指導者から受ける。	以下のうち二つ以上満たす。①実習日誌や実習報告書等の記載内容に、子どもの人格を尊重しない言動がなされている部分があることを認める。②実習中に知り得た個人情報の保持に問題がある。③実習巡回時等において、それらを逸脱する内容の言動等の指摘を指導者から受ける。
10	3. 子どもと信頼関係を築く力を有している。また、保護者との初歩的なコミュニケーションをとる力を有している。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりのエピソードについて4人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりのエピソードについて3人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりのエピソードについて2人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、一人の子どもとの関わりのエピソードについて記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭におけるエピソードの記述、口述において、子どもの行動や内面についての共感的理解が確認できない。あるいは、実際の支援やその意図について配慮が確認できない。
11	4. 保育者として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している。	学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への自主的な参加が5回以上ある。	学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への自主的な参加が3回ある。	学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への自主的な参加が1回ある。	授業の一環としての学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への参加があるが、自主的な参加が認められない。	授業の一環としての学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への参加がなく、また、自主的な参加も認められない。